

### Story 3

## 歴史ある街で 日本の心に触れる一日。 椿いろどる和ウエディング

福島 洋樹さん & 育代さんの結婚式

石川 Ishikawa

Location\_宇多須神社、十月亭  
Guests\_14名 Date\_03.05



高貴な白無垢姿に角隠し。  
お支度をした後は、二人で  
ひがし茶屋街をぶらり

おしゃれりしながら、ひがし茶屋街を歩いた二人。洋樹さんの喜段通りの様子に、育代さんもリラックスできたそう。選んだ白無垢は、日本の花嫁衣裳の起源になったと言われる「幸菱(さいわいびし)文様」。挙式は、お母さんたっての希望である角隠しをつけ、伝統的な日本の花嫁スタイルでのぞんだ。

Smile!



結婚式だっていうのに、いつも通りの笑顔の彼。  
私もつられてフワって笑って。緊張はどこかに飛んでいっちゃいました



富山に住む二人が  
選んだ結婚式の舞台は  
和の情緒たっぷりの金沢!

富山で暮らす洋樹さんと育代さんが結婚式に選んだのは、金沢五社のひとつである宇多須神社と、ひがし茶屋街に軒を連ねる老舗料亭「十月亭」だ。「挙式も食事会も、もちろん衣裳もとことん和にこだわりたい」と、歴史の情緒あふれるこの地をセレクト。石川の風習である花嫁のれんの前で、記念撮影を楽しんだ。

I@nexcied



doki doki



緊張の挙式の後  
弟さんの差掛け傘で花嫁行列。  
婚家に見立てた「十月亭」へ

育代さんの弟さんが傘を持ち、親族や友人たちと花嫁行列で歩んだ。料亭「十月亭」を婚家に見立て、玄關先でお水合わせをし、花嫁のれんをくぐった。その昔の嫁入り道具だった加賀刺しゅう手まりと輪島塗の重箱には加賀襷紗(ふくさ)を掛け、さらに織の重掛けで整えるという金沢ならではの婚礼文化が再現された。



気心知れた人たちが集まって、心ゆくまで飲んで、食べて、話して。  
遠慮なんていらさない、そんな空間に心が温まりました

Wonderful!



鏡開きで食事会がスタート！  
ゲストとの距離を感じない  
アットホームな空間に

貸切の料亭では、二人を囲むようにゲストが座り、全員の表情がわかる距離感で会話も弾んだ。また、結婚式のテーマである椿の花「西王母(せいおうぼ)」に合わせ、鏡開き用のこも博も加賀氷引を使ったオリジナル！「祖母が椿が好きって話をしたら、『金澤syugen』さんがステキにコーディネートしてくれました」と育代さん。

「宇多須神社」での挙式。  
厳かな雰囲気の中で感じた  
儀式の尊さと父の愛

宮司さんが事前に意味を教えてくれた、三三九度や玉串奉奠(ほうてん)。その儀式一つひとつを丁寧に、想いを込めて行った。結婚指輪は「親が子に贈る」という家系の風習にちなり、育代さんのお父さんが手作りしたもの。「父が作ってくれたものを、神様とゲストに、きちんとお披露目したかったんです」と育代さん。



儀式一つひとつに想いを込めて、丁寧に。  
日本の結婚式ってなんて素敵なんだろう。日本人で良かった。





遠くに住む両親へ感謝を込めて  
当日の婚礼衣裳を織った  
「金澤祝言こぼし」をプレゼント!

ゲストのおしゃべりをたっぷり楽しんだところで、自無垢と黒引き振袖、それぞれのこぼしを両親へ贈った。「大人になってからは、家族が集まることになって。この場で感謝を伝えられてよかったです。昔はケンカばかりだったという弟さんも、育代さんの結婚を喜んでくれ、改めて家族のあたたかさを実感したそう。

Thanks!



Happy!

Produced by  
株式会社金澤syugen  
問い合わせ / 076-214-4555  
石川県金沢市奥野出町2-22-6  
サンルックスビル2F  
http://www.kanazawa-syugen.jp/



ひがし茶屋街の歴史ある町屋で  
時空を超えた叙情的な祝言

花嫁様が加賀藩前田家の下屋敷があった地のご出身で、幼い頃から金沢との深い縁を感じていたことを聞き、前田家に伝わる茶席の名花「西玉母」をテーマに加賀の文化とお二人らしさを織り込み創作しました。衣装プロデュースでは花嫁様の大人の女性の可愛らしさを表現しました。

Program table

|       |                                 |
|-------|---------------------------------|
| 9:00  | お支度開始                           |
| 11:00 | ひがし茶屋街で撮影                       |
| 12:00 | 挙式<br>集合写真<br>十月亭へ花嫁行列<br>お水合わせ |
| 12:45 | 披露宴開始<br>ウェルカムスピーチ<br>饗開き<br>乾杯 |
| 13:50 | お色直し入場                          |
| 14:00 | 列席者紹介<br>新婦祖母 謡曲披露<br>お酌タイム     |
| 14:55 | 両親へ記念品贈呈<br>新郎新婦謝辞              |
| 15:10 | お開き<br>街並みでお見送り                 |



結婚式でしか食べられない  
見た目にも美しい料理の数々は  
金沢ならではの「おもてなし」

県外出身の二人の結婚式には、初めて金沢を訪れる人がほとんど。「北陸の美味しいお料理をみんなに味わってもらいたい」という気持ちも、「十月亭」を選んだ理由の一つだった。武家文化の町ならではの伝統的婚礼料理は、器にも趣があり美しい逸品ばかり。お酒もすすみ、ゲストの普段通りのいい表情が見られたそう。

Place\_ (挙式) 宇多須神社、(食事会) 十月亭  
Assistant producer\_ 山上勝代  
Hair/make\_ 原田末子・室ひろみ  
Photographer\_ 大森史  
Flower\_ 花のアトリエ こすもす  
Costume\_ プライダトルみづ和  
Cooking producer\_ 日本料理致屋 高木慎一朗

カタチだけじゃない  
伝統的な和の結婚式を

「挙式も披露宴も衣裳も、ぜんぶ和にしたい。これは結婚が決まった時から、育代さんが心に秘めていた思いです。しかし、どの式場も、披露宴会場は洋風ばかり。諦めかけていた時に出会ったのが、「二人の新生活に招かれたらウエディングプロデュースを行う『金澤syugen』」でした。

おはあちゃんの好きな花が椿だと話した育代さん。すてじ、プロデュースの渡子さんを提案されたのです。そして、渡子さんと準備を進めるうち、「植物の紋様に込められた意味や金沢の和の文化、自分たちが行う儀式一つひとつ、それを知りたいな」と微笑んでくれました。

意味のあるものになるだろうな」と、カタチだけではない、本当の和の魅力に気づいていきます。

迎えた当日、宇多須神社と十月亭を舞台に、和で溢れる一日を過ごした二人とゲストたち。今まで打ち合わせを重ねてきた渡子さんが進行を務め、金沢の婚礼文化や歴史について話をする場面もあり「アットホームな雰囲気の中、神様にも家族にも、きちんと報告ができました。こうして、歴史的な文化のある金沢で、伝統的な和の結婚式が叶ったのでした。

あれから一年半。今年も結婚式と同じ日に神社で手を合わせ、「美味しいね」と十月亭の料理を味わった二人「こんな風に毎年挨拶にいけるってスナマなことを思ってます。来年も再来年もずっと続けていきたいな」と微笑んでくれました。



Bravo!

二人から直接ゲストにお酌を。  
おはあちゃんの歌声には、  
ゲストみんなが思わず涙...

お色直しをした二人はカウンターに入って、ゲストにお酒を注いで回った。黙殺の途中で、育代さんのおはあちゃんが謡曲を披露。緊張しながらも一生懸命歌う姿に、ゲストの目には涙があふれた。「私の家では、祖母が嫁入する孫に書を贈る風習があって。この日のために直筆してくれたのも、すごうれしかったです。」

